会報ふくおか

福岡県土地家屋調査士会

平成 24年 9月

目　　次

・総会の議事録から「平成 24 年度事業方針」　会長　草賀　裕一　P1

・土地家屋調査士用変換計算ソフトを
製作しました（ソフト投稿）　南福岡支部　白谷　勝宏　P3

・「新人実務体験研修」を受講して　西福岡支部　山本繁樹　P5

・津軽海峡の上と下の旅　北九州支部　福永　和幸　P10

・平成24年度総会後の懇親会で行った
バンド演奏（動画投稿）　北九州支部　村吉正信　P12

・編集後記　広報部長　田﨑　実　P14

総会の議事録から「平成 24 年度　事業方針」

会長　草賀　裕一

平成 24 年度の事業方針の概要を、議案書の 76 ページに記載しております。
基本的には平成 23 年度の事業を踏襲した内容です。

今年度の事業推進に当たっては、役員が信頼と協調のもと、一体となって、会員と対話を深め、会員の意見を会務に反映させるとともに、活力のある会務執行に努めることといたします。

平成 23 年度は、遺憾ながら土地家屋調査士としての品位を損なう事件が数件発生いたしました。
今年度においても、会員の倫理の確立と品位の向上に努めます。
又、研修会等を通じて会員の資質の向上を図るとともに、社会的貢献及び広報活動の充実を図って参ります。
そして福岡会の財政全般の見直し・検討を行います。

以上を重点方針として、
・まず、会員の倫理の確立と品位の向上については
最近は、会に対する帰属意識の欠如がうかがえる会員が増加しているような気がします。自分さえよければいいと言う会員が、増えているような気がしております。
調査士会は強制会であることを鑑みても、会則や法令を遵守しなければなりません。
会としては、法律や会則を著しく遵守しない会員に対しては、会則第 105 条を持って、支部長協力のもと、会員の指導を行わざるを得ないと思っております。

これは、会員をむやみに注意するのが目的ではなく、苦情・綱紀事件の予防のための方策であり、会員を護ること、そして制度を護ることに、つながるのではないかと考えております。

・次の研修会の充実は、エキスパート会員の養成・資質の向上を求め専門的な研修会を開催いたします。
つきましては、多くの会員が参加して頂くように、働きかけるとともに、魅力ある研修会を企画していきます。

次の専門職能力を活かした社会的貢献の場・広報として取り組んでいる「境界問題解決センターふくおか」いわゆるセンター福岡ですが、相談から調停に至るまで、広く市民に信頼して頂けるセンターとして今まで以上に利用しやすく、信頼性のあるものにしていかなければなりません。

平成 24 年度はセンターの事業内容を見直す年にいたします。

もうひとつの事業である寄付講座は、平成 25 年の 9 月開講を目指し九州大学と協議を進めて参ります。

最後に財政全般の見直し・検討については、収支バランスのとれた健全な財務状況の中で、会務運営が継続的に出来るよう、また制度の充実や専門資格としての研鑽に必要不可欠な事業の削減等が無いように、広く会員の意見を聞きながら、会費の見直しも視野に入れながら、財政全般について検討していきます。

以上の項目を重点に活動の指針として参りたいと思います。

細かいことについては、各部・各委員会のほうで具体的な事業計画を見ていただきたい。

土地家屋調査士用変換計算ソフトを製作しました

南福岡支部　白谷勝宏

調査士用変換計算手帳　　お読みください

１.使用出来る環境について

調査士用変換計算手帳.は Windows 専用で、WindowsXP-SP2 以上および　Windows Vista、Windows7（※1）で動作します。
その他の環境(Windows95,WinMe,Win2000 等)、mac 系、UNIX 系等では正常動作しません。

２.調査士用変換計算手帳. のアンインストールについて

調査士用変換計算手帳.を削除する場合、コントロールパネルの"ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除"から、調査士用変換計算手帳.を選択してください。

ダウンロード URL
http://www.fukuoka-chousashi.or.jp/modules/d3downloads/index.php?page=singlefile&cid=86&lid=748

※注記 1.インストールプログラムが Windows7 では、まれにインストールができないと表示されることがあることがあります。そのときに出てくるダイアログ「インストールを中断しますか」の　Y.N　表示の Yes を押し、一旦中断する。
次に出てくるダイアログの（互換性のある設定）を選択すると、問題なくインストールできます。
これはインストールプログラムの問題で、プログラム本体は Windows7 で問題なく動作します。

あとがき
と、一丁前に格好つけて記載しておりますが、自分の事務所と自宅のパソコン６台と、

南福岡支部の田中俊毅事務所のパソコン２台、計８台（Windows のバージョンはバラバラ）のパソコンでしか正常インストールと動作確認をおこなっておりません。
（たったの８台）！　その範囲内での動作は全く正常でした。
　ソフトの使い勝手やレイアウトは最悪です。元々自分専用に作製しており、継ぎ足し継ぎ足しで来ていますので、計算できればそれで良しとの考えですので、使いやすいレイアウトや、自動フォーカス、自動 IME 操作等のサービスは皆無です（今後、順次改良していきます)。
　現在のところ、見ていただくと判りますとおり、全くの作りかけであります。
　今後、計算機能の充実と各種サービスの追加で改良して、次の機会に順次バージョンを上げて、投稿していきたいと思います。

「新人実務体験研修」を受講して

西福岡支部　　山本繁樹

1.プロローグ

3 月 1 日付け土地家屋調査士登録を控えた 2 月 10 日に、福岡県土地家屋調査士会事務局において、浦志副会長に入会に際しての面談を受けることになった。面談の主旨は登録の意思確認であったが、その話の中で、全国調査士会に先駆けて、「うちは今年から新人実務体験研修を始めるよ。」という話をされた。

実務経験の無かった私は、「それは助かります。ぜひ研修生に入れて下さい。」と一も二もなく、その場でお願いした。

後で分かったことですが、研修部では、後進を育成することが調査士制度の存続につながるという観点から、会員の受け入れ講師を募集し、2 週間から 3 ヶ月程度の期間を設定した研修制度として「新人実務体験研修」の計画が立案されていた。新人に対し適切な指導を行うことが、帰属意識の向上や調査士制度の発展につながるとの確信の下、新人育成の為には支部や支部会員のご支援やご協力も不可欠ですので、ご理解をお願いしますとの呼びかけも事前にあったことを知る。

2.新人実務研修生の経歴について

新人実務研修生のイメージとしては、初々しい三十路を少し越えたぐらいで、女性に声をかけられると、直ぐに顔を赤らめるという感じではないのでしょうか。皆さんの想像をぶち壊して申し訳ないのですが、今回の研修生は還暦をとっくに過ぎた正真正銘の「おっさん」なのです。

私は学校卒業後、某大手外資系複写機会社に就職しました。修理メンテをするサービス部門に属し、エンジニアとして活動し、後にサービス主任やサービス長として、部下育成やマネージメントを学ぶことが出来ました。

定年まで 1 社のみというのは、相当珍しいことの様で、年金の確認にハローワークに出向いた際、職員の方に「えー？1 社のみですか。」と驚かれたことからも伺い知ることが出来ます。

管理職となり、お客様からのクレーム処理等が上手く出来た際には、ほっと胸をなで下ろすと共に、上手く出来たのは、自分の能力だったのだろうか、会社の看板を背負った自分だったからお客様も納得し信用して頂けたのではないだろうか、と疑問を持つ様になりました。それはいつしか素の自分で実力を試してみたいと考える様になりました。会社勤めも 50 歳近くになると誰しも 60 歳からの第 2 の人生プランを考える様になるようです。

平均寿命が 80 歳にもなると、定年以後の 20 年間をどのように生きていくのか重要な課題となります。
折しも会社では 50 歳以上の希望者を研修所に集め、2 泊 3 日の人生プラン作成のグループ研修があり、早速私は応募して、すでに宅建は取得していたので、明確に土地家屋調査士を目指すことを宣言しました。
定年までに調査士試験に合格すればよいと考えて、だらだらと勉強していたのでが、東京での単身赴任中の平成 19 年度の試験で合格してしまった。合格発表後の翌年、ADR 研修も受けて認定資格も取得したが、ハタと困ったのは、調査士に関しての実務経験が全くないと言うことであった。

3.休職しての実務勉強について

会社制度の中に、50 歳以上の社員を対象として、3 ヶ月から最長 2 年間まで休職して、自分を見つめ直したり、これまでの専門性をより高めたり、また、新たな専門性を身に付けたりする事で、充実したセカンドキャリアに向けてチャレンジできるような制度がある。この休職期間中は本給相当分が毎月支給されるという結構な制度となっていた。
早速私は、6 ヶ月間を調査士実務研修にあてることにして、休職の申請書を提出した。以下は申請時に書いた当時の私の考えの一部です。

「国民の財産の多くは不動産ですが、この財産を誠実かつ正確に法務局に登記するのが調査士の主な仕事です。
この分野でも近年デジタル化が進み、境界確定や土地の分筆においても世界測地系の座標値が必要であり、公図や地積測量図を資料とした所有者同士の話し合いによる承諾書添付が必須となっています。この様な調整業務は相当の時間がかかり、労多く益少ない仕事だと思われますが、わずか 20 センチのブロック 1 枚の境界争いから刃傷沙汰になった事件などを考えますと認定調査士として、広く社会に貢献出来るやりがいのある仕事だと思います。」
無事休職が決定し休職に入る前に、小田原でソキアの調査士測量実務研修を 3 泊 4 日程度で受講した。
ここで初めて、トータルステーションを触り、設置の方法などの基礎を学び、グループでの課題である指定された場所の面積を計り、分筆作業と地積測量図の作成まで体験することが出来た。
その後 ADR 研修でのグループ研修で知り合った調査士事務所で 3 ヶ月、他の調査士事務所で残り 3 ヶ月を研修した。当初の計画では、6 ヶ月も研修をすればある程度の仕事の基本は覚え、九州に帰ってからは直ぐに開業出来ると考えたが、それは大きな間違いであることに気が付くことになる。

4.無給での研修の状況について

毎日 9 時までに調査士事務所に通い、測量のある日はレンタカーに必要な道具類を詰め込み、現地ではミニプリズムを持ち、測量の手伝いをする、その他官民境界の申請書や資料の収集や写真取りと結構忙しかったが、1 つの案件を通して完結まで携わることはなかったので、仕事の全体を把握することが出来なかった。

１つは最後までトータルステーションを触らせてもらうことがなかった。これは無理からぬことで、高額な上に、測定ミスなど起こすと依頼者に迷惑をかけることになるからだ。

これなど自分で購入してから覚えればよいことなので、あまり大きな問題ではないかも知れない。

2 つ目は専用ソフトが充分に扱えないことであった。昼間時間がある時は触らせてもらえたが、プロテクターが 1 つしかない為、仕事に入ると直ぐに戻さなければならない。測量してきたデーターをどのように加工していたかは、皆目見当が付かないまま終了してしまった。

調査士という限りは、必要な書類等を収集して、測量した結果と照らし合わせて、調査して結論を出していくものだと考えるが、どのような書類をどこで収集するのか、測量した結果をどう照らし合わせるのか理解出来ないまま 3 ヶ月が終了した。また開業して直ぐに必要になると思われる見積もりの出し方についても話し合うことはなかった。これは後に研修する他の事務所でも同じことであった。

5. 定年後について

予定の休職期間終了後、残り期間を有休等で消化し、無事定年退職をした。

九州に戻った後、直ぐには調査士登録をせずに、ぶらぶらとした生活を送っていた。これは開業しても業務を遂行できる自信がなかったことも理由の 1 つであった。

報国寺の菅原和尚の言葉として、「無為に日を過ごす事は大器の業なり」というのがありますが、どうやら私は大器ではないらしく、1 年半もぶらぶらしていると調査士として相談に応じることぐらい出来るのではないかと考える様になり、初心の目標通り「広く社会に貢献出来るやりがいのある仕事をしたい」と調査士登録を決心した。

6.福岡県調査士会での新人実務体験研修について

当初自宅から事務所が近い福岡県土地家屋調査士会総務部長の諸岡事務所でお世話になった。

インターネットによる基準点の確認方法や道路の管理部門の確認方法を教えて頂いた。また見積もり依頼に同行して頂き、現地でのチェックポイント等余す所無く指導して頂いた。

官民境界の立会いも見学することが出来て、大きな自信となった。

後半の研修は自宅から 50 キロ程離れた大刀洗にある福岡県土地家屋調査士会研修部長の矢ケ部事務所でお世話になった。矢ケ部事務所では私の為に、研修用にと業者からトータルステーションと三脚を借り出して頂いていた。また、最近購入したばかりの最新型の調査士専用ソフトも独占的に使わせて頂いた。



ソフトの操作練習中の新人研修生

最初の頃は、朝 6 時起床 6 時半出発の生活で、毎日往復１００キロを通うのが苦痛であったが、通う都度に学ぶことが多く、少しずつ自信を持ち始めると、学ぶ楽しさの為か朝 5 時には目が覚める始末であった。

もしかしたら単に年取って朝早く目を覚ますだけかも知れないが。

ここで学んだことのいくつかをご紹介したいと思います。

世間では人がやっている良いことを自分がする時マネすると言いますが、日科技連の TQC では水平展開と称します。



TSの取り付け訓練をする新人研修生

では水平展開すべき 1 つ目として、立会いの際、事前に割り箸の頭に赤ペイントしたものをポイントに刺しておき、立会い当日は誰にでも分かり易い様にロープを使ってセットバックのラインを再現しておられました。

地主の方など年配者が多い中では、理解し易いし、誤解を生まない最善の方法に映りました。

水平展開すべき 2 つ目として、ミラーマンは測定し終わるまで硬直した状態でミラーを水平に保たねばならず、ポイントが多いと腕のしびれが発生するほどでしたが、当事務所では支えとして竹の棒を 2 本使われています。

ミラーを垂直にした後 2 本の竹で支えると腕のしびれが無くなること請け合いです。

東京でのミラー持ちの作業時にこの様なアイデアは浮かびませんでしたが、ちょっとしたアイデアで仕事は楽になるのだと反省した次第です。

まだまだ水平展開すべき事柄は沢山ありますが、これ以上は企業秘密と云うことで終わらせて頂きます。

7.これから開業を考えている方々に調査士の掲示板等では実務経験が全く無くとも何

とか業務を遂行出来たとか、年長者の思い出話で何も知らなくても現在の自分がある等々の体験談が巷には溢れています。
私も以前は「習うより慣れろ」で、実務経験がなくとも何とかやれるだろうと考えていた。
昔ならいざ知らず、今の時代ではそれは危険なことだと言わざるを得ません。
早急に売却したいお客様からの土地分筆の依頼や、融資を急ぐ建物の表示依頼等々は、書類の抜け漏れがあり納期を遅らせるようなことがあっては、大変な迷惑をかけることになり信頼関係も一瞬にして壊れてしまうことになる。
更に「不動産に係る権利の明確化を期し、国民の信頼に応える。」という使命を全うさせる事が出来なかった場合、土地家屋調査士という職種全体に不信感を招くことにもなる。
最近、注意勧告や懲戒等を目にすることが多くなり、内容を確認すると、悪意があったのではなく、単に「知らなかった」というだけのこともあるようです。当然プロの立場で知らなかったは許されるものではありません。
開業後はすぐに稼がなければと考えている方もあろうかとは思いますが、急がば回れのことわざ通り、実務経験のない方はこのような研修を受講することをお勧めいたします。

8. エピローグ

まだまだ勉強途中ではありますが、福岡県土地家屋調査士会の草賀会長始めスタッフの皆様方の協力を得て、新人実務体験研修を受講させて頂いている。
特に諸岡先生並びに矢ヶ部先生には直接手取り足取り、ご指導頂き、感謝の言葉も見あたりませんし、
この有り難さと感激は言葉では表現出来るものではありません。
このご恩に報いるには、早く 1 人前の調査士となって、広く社会に貢献出来る様になり、また新たに登録してきた新人に対して私が受けた研修の様に指導育成していくことではないだろうかと考えています。
またこの様な新人実務体験研修が大変有意義であり、身をもって体験していますので、ぜひ今後も継続して頂きますことを切に願う次第です。
つたないレポートでしたが、最後まで読んで頂き、誠に有り難うございました。（平成 24 年 7 月末日記す）

津軽海峡の上と下の旅

北九州支部　福永和幸

昨年北海道宗谷岬から伊達市長和交差点まで軽マイカーで走り、その続きを走る。妻と２人、空から新千歳空港に降り、レンタカーで、長和まで高速道を走り、交差点で昨年と同じ場所で記念写真。



北海道　H23.7.10



北海道　長和交差点　H24.7.1

一般道を函館へ１６０キロ、3時間の旅。２日目五稜郭に行く。１５年前友５人と来たのだが思い出せない。写真があるので同じ場所でハイポーズ。



函館　五稜郭



その後フェリーで青森へ、客少なく津軽海峡夏景色は静かだった。３日目は青森のレンタカーで十和田湖へ。カーナビのおかげで安心だ。遊覧船に乗り自然のすごさを満喫した。

帰りは奥入瀬渓谷をゆっくり走り、滝を眺め、散歩する。紅葉の時に来たら最高だろうと妻と話すが、大変だろうと。



奥入瀬渓谷



ねぶた館

青森市内の棟方志功記念館に行く。４日目、ねぶた館、八甲田丸を見学し、青森駅よりＪＲ特急海底トンネル線に乗り、竜飛海底駅に停車し函館駅へ。５日目、預けていたレンタカーで高速道を千歳に走り、空へご帰還です。

平成24年度総会後の懇親会で行ったバンド演奏（動画投稿）

北九州支部　村吉　正信

会報「ふくおかＨＰ版」の投稿依頼を受けてましたが、今回はＨＰの特長を生かし、動画での投稿を・・と言うことで、恥を忍んで投稿します。今年の県会総会後の懇親会で行ったバンド演奏の模様です。

そもそも、このバンド名、「土地家屋調査士バンド ”Ya-Queen's"」って、僕自身、「なんのこっちゃ」と思ってたんですが、メンバー７名（バンド演奏時は１人欠席）が、何らかの役員であることから、（役員ズ）→（ヤクインズ）→（ Ya-Queen's）となったようだ。総会直後の懇親会のため、リハーサル無しのぶっつけ本番。実は僕が担当したキーボードは、メインアンプへの接続トラブルがあり、音量調整が出来ず、出だしがめちゃくちゃなんです。メンバーも音のバランスを確認しながら、手探り状態で演奏しています。動画を見ながら、そのあたりも楽しんで頂ければと思います。

演奏はまだまだ未熟ですが、来賓の方からも沢山のお褒めのお言葉を頂きました。「元気が出た」「普段と違った姿をみて驚いた」「自分もまた、楽器をやろうと思った」などなど。

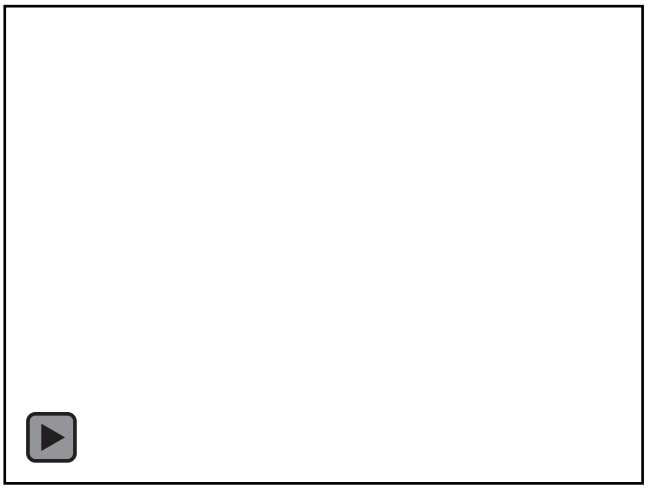
このバンド、約２年前の調査士会北九州支部の総会後の懇親会でのアトラクションで演奏するために、急遽結成。もちろんメンバー全員北九州支部の調査士。１回限りの演奏だったので、即解散・・・だったけれど、なんだか楽しいし、もう少し続けようって事で、活動を続けました。以後、福祉施設のお祭りイベントや東日本の震災チャリティーライブなどの参加を通じ、「土地家屋調査士」の広報も行ってきました。次のステージが決まれば、慌てて集まって練習しているため、今現在は休止状態。

僕は幼い頃からピアノを弾きたくてたまりませんでした。けれどそのチャンスもなく大人になりましたが、５年位前にやっとピアノを手に入れ、自己流で鍵盤をさわってました。曲なんて弾いたこともありませんでした。そんな下手くそな僕の演奏にメンバーは、怒るわけでもなく気長につきあってくれました。経験や環境が異なる者が、演奏を通じ関わり、しかも同業者の仲間であることがとても嬉しく、この環境に感謝してるばかりです。「好きなことを好きで居続けること」って大切だと感じた瞬間でした。

会場に居合わせた皆様、お聞き苦しい点が多々あったことと思いますが、沢山の拍手と激励のお言葉に心から感謝申し上げます。最後にメンバー紹介を・・・魚澄（Vo/G）、高倉（Vo/G）、村上（G）、佐々木（Dr）、石島（B）、村吉(Key)//松永(当日欠席)

（動画内の曲名）

1. チャンピオン（king　of　kings）
2. 冬の稲妻



編集後記

広報部長　田　崎　　実

朝晩はめっきり涼しくなりましたが、昼間は残暑が厳しく、風邪などひかない様ご自愛下さい。